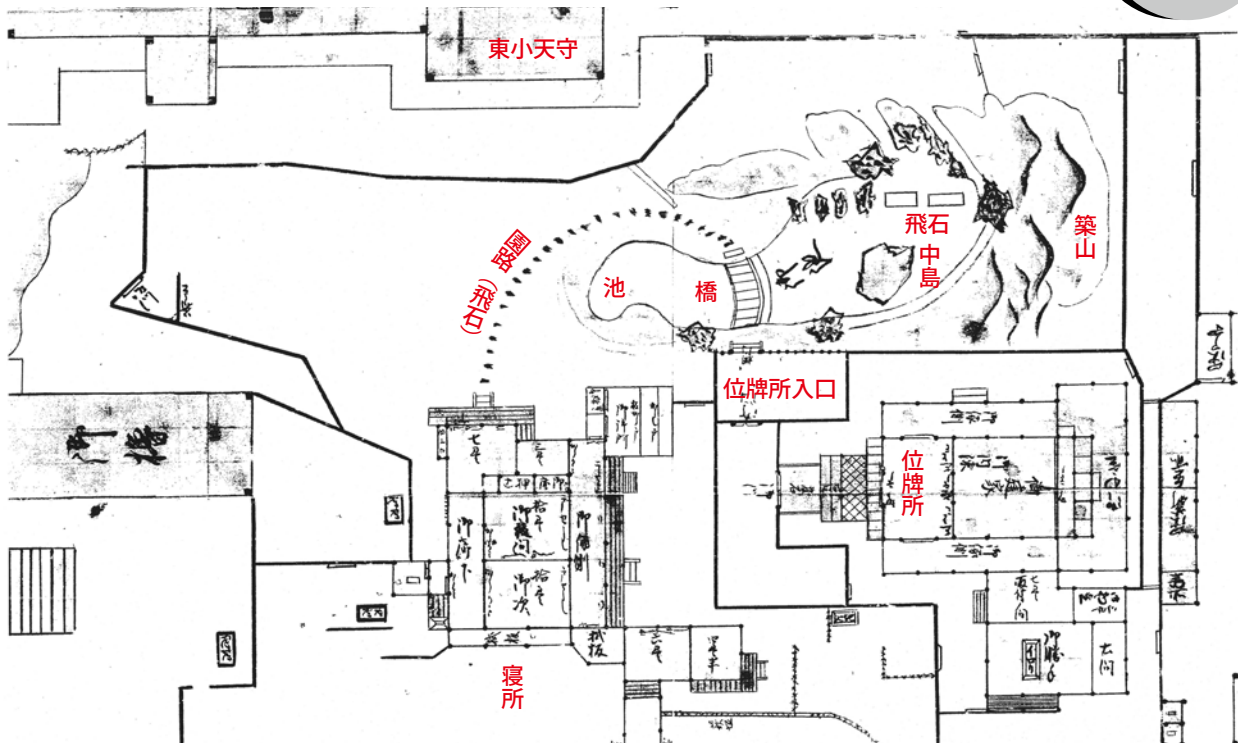


Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



No. 23



御城指図（広島市立中央図書館蔵。方角は図面上側が北）

広島歴史の小耳 19

本丸にもあった!? 広島城の庭園

広島城に関する庭園としては、浅野長晟^{ながあきら}が元和6年(1620)から上田宗箇^{そうこ}に命じて築かされた別邸・縮景園^{しゅくけいえん}が有名ですが、広島城の本丸の中にも庭園がありました。残念ながら、この庭園は宝暦2年(1752)の本丸御殿増改築に伴って廃止され、現在見ることはできませんが、一枚の絵図を手がかりに在りし日の姿をうかがうことができます。

手がかりとなるのは、「御城指図^{さしず}」という絵図です。この絵図は先にふれた本丸御殿の増改築に伴って作られたもので、増改築の前後兩段階の本丸が描かれており、庭園は増改築前の図に見られ

ます。したがって、絵図に描かれた庭園は、廃止直前とは断言できないまでも、それに近い時期の様子を示していると考えられます。

さて、「御城指図」によると、庭園があったのは、本丸御殿の北、東小天守の南東でした。庭園は池と築山を伴うもので、池のまわりを遊覧できるようになっていました。池は細長いひょうたんのような型で、その規模は東西十二・三間(21.6～24.4m)程度だったようです。池には中島と飛石が設けられていたほか、橋も架けられていました。また、築山は池の東側にありました。

次に庭園の周辺に目を向けると、西には空き

地が広がっていたことがわかります。この空き地は城主のプライベートルームである寝所（「御寝間」）に面しており、寝所北面の縁側からは庭に至る園路が延びていました。南には、塀を隔てて城主一族の位牌を祀った位牌所とされる建物（「御建家」）の区画がありました。なお、位牌所への入口はちょうど池の橋の南に位置し、位牌所へ行くには一度庭園に入り、わざわざ池に架けられた橋を渡る必要がありました。

ところで、一般的に江戸時代の城郭の庭園は、城主の遊興の空間でもゲストを接待するための空間でもあり、周辺には書院あるいは東屋といった庭園を觀賞するための何らかの建物があったと考えられますが、「御城指図」では、該当する建物は見当たりません。庭園の西南に位置する寝

所からでは、距離や方角の面で觀賞が困難と思われる、最も近い位牌所からでも、塀のため直接庭園が見えなかったと考えられるからです。

位牌所に関しては、江戸時代初期に庭園の一部を削って造られたとの説がありますが、それも庭園を無視したかのような位牌所の区画配置を見ればうなずけます。縮景園の創設によって、本丸の庭園の役割は変化したと考えられ、さらに位牌所設置の際、庭園は位牌所に至る道のりを彩る空間としての役割も帯びたのでしょう。（篠原）

〔参考文献〕

田中哲男『日本の美術 429 発掘された庭園』至文堂,2002
広島市教育委員会編『史跡広島城資料集 第1巻』1989
三浦正幸「広大さを誇った本丸御殿」『歴史群像名城シリーズ9 広島城』学習研究社,1995

城下町こぼれ話

広島城下の小路

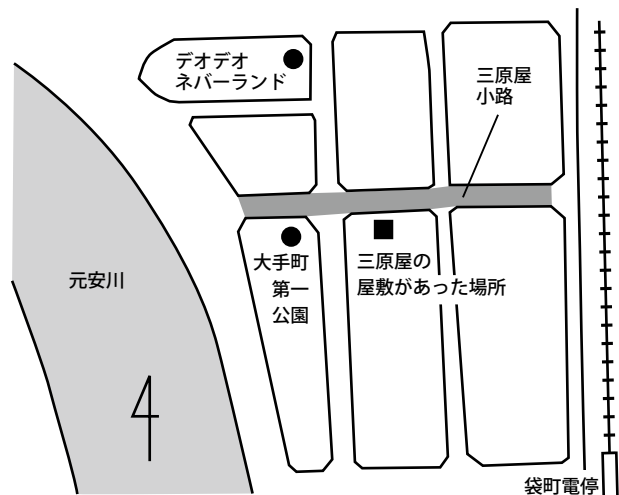
毛利輝元が築城を開始したと同時に城下町づくりが行われました。当時の町づくりは道路が基準になっていました。まず縦（南北）横（東西）に直交する道路をつくり、町を碁盤目状に区画します。そして、道路に対して家が配置され、1つの町は原則として道路を挟んだ両側とされたのです。当時の絵図を見ますと、町の基準となった道路には「○×町」と町名の表記がされています。このころは道をはさんで両側が同じ町名でした。

ところで、こうした町の基準になった道路とは別にさまざまな小路が存在しており、当時の人々はそれに愛着を込めて味わい深い名前を付けています。小路の多くは戦後行われた町の区画や街路の変更によって姿を消し、また残ったものもかつての名前を失いました。本稿では、そうした小路と名前について紹介し、広島町の隠れた歴史の一端について紹介していきたいと思えます。

まず、その名前には小路近くにあった家に関連するものが多く見られます。例えば、餌差小路などは家主の職業に由来するものです。これは空鞆神社（現在の中区本川町三丁目）のすぐ裏手にあった南北に延びる小路でしたが、現在は無くなっています。餌差とは鷹の餌となる小鳥を捕ま

える人のことです。空鞆神社の南側にはかつて鷹匠町という侍町があり、そこには町名の由来である鷹匠が住み、藩主が鷹狩りの時に使用する鷹を飼育した「鷹部屋」がありました。餌差は鷹部屋に餌となる小鳥を納める役職で、餌差小路に面した長屋に集住していたようです。

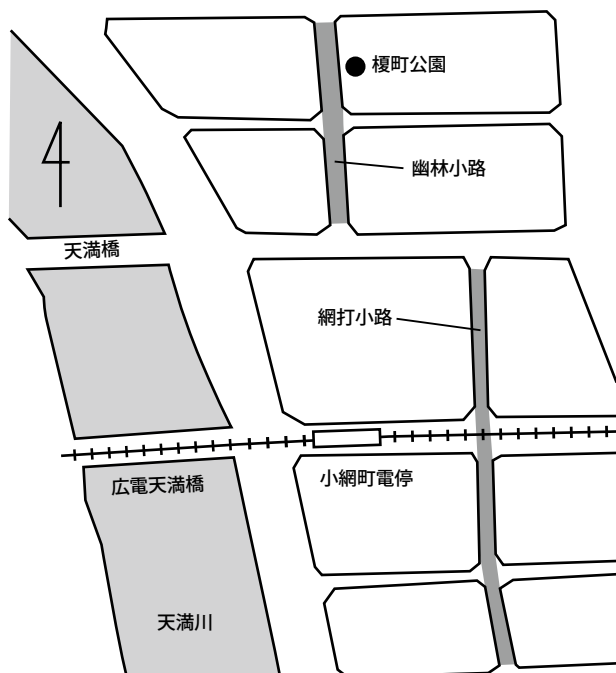
それから家主の屋号に由来するものがあり、三原屋小路があげられます。中区大手町二丁目にある大手町第一公園の北を通り、東側の電車通りに至る道がそれにあたると考えられます（地図1参照）。小路名の由来となった三原屋は白神三丁目



地図1

(現在の中区大手町二丁目)にいた大商人で、三原から移住した後酒造業を営み、その広大な屋敷に藩の賓客を宿泊させたこともあったようです。

さらに、家主の名前に由来するものもあり、堺町四丁目(現在の中区榎町)にあった幽林小路がそれに該当します。天満橋東詰から東に位置し、北に抜ける小路がそれにあたると思われますが、やや位置がずれているかもしれません(地図2参照)。この小路の入り口に幽林さんが住んでいて針治療をしていました。



地図2

ちなみに、後にここは幽霊小路と表記されるようになりました。単純に名前がなまってそう呼ばれるようになったのですが、実際に幽霊が出るとされた小路もあります。例えば幟町の藪小路がそうで、今は幟町小学校の建設で姿を消しています。城下の人々から「出そうで出んのが藪のウレン」と謡われています。

現在は地名となった小路もあります。幽林小路の南側、広瀬村(現在の中区堺町・小網町)にその小路はあり、天満橋東詰から東に位置し、南に抜ける道がそれにあたると思われます(地図2参照)。これは網打小路といい、網打ちを生業にする漁民が多く居住していたことからこの名があるのですが、これが後の小網町という名の由来になりました。

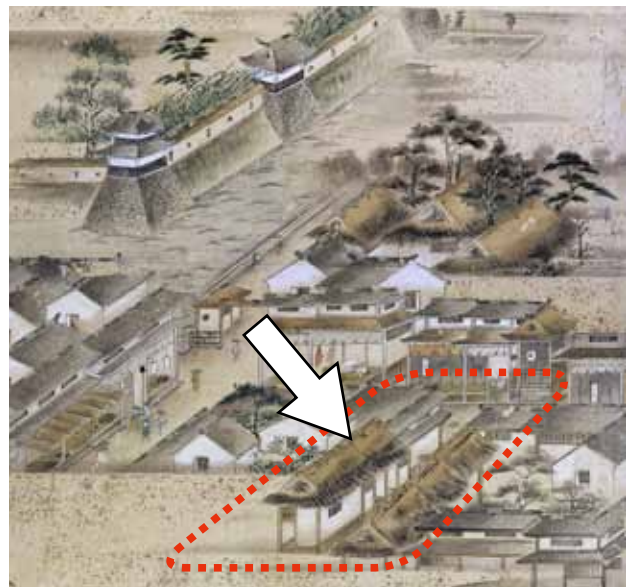
当時かなり有名だったらしいのが夫婦小路です。胡町内にあり南北に伸びる小路でした。現在

は中央通りの建設により失われたようですが、当時の様子は広島城下絵屏風でうかがうことができます。この小路の東角に本庄屋半兵衛、西角に天満屋かつという夫婦が東西別々の家に別れて住んでいたのだからこう呼ばれるようになったと言われています。

こうした小路名とは一風違い、シャレで付けられた名前もあります。天神町(現在の中区加古町)には蛤小路という道がありました。当時と様子がすっかり変わってしまっているのも場所の特定はできませんが、平和大橋と万代橋の間の河岸に存在した道です。蛤を扱う店があったのでしょうか。いえいえ、これには別の理由があります。この小路は享保年間(1716~1736)の火災の後新しく開かれた道で、焼けて開いたということから、蛤の名が付けられたのです。他にもこの名を持つ小路が別の場所に存在したようです。

最期に杉の木小路ですが、その由来ははっきりしていません。この小路に面して頼春水の屋敷がありました。そう、頼山陽史跡資料館が面している道こそ杉の木小路なのです。この名は現在資料館に収蔵されている頼家関係の資料「杉の木文庫」になごりを残しています。

ここに紹介したのはほんの一部です。いろいろ調べてみると当時の人々の息吹が伝わってくるようです。こうした広島の歴史を伝える小路名が今は失われてしまったことが、少々残念な気がします。(本田)



胡町の夫婦小路の様子(矢印)
広島城下絵屏風(広島城蔵)より

私のおすすめスポット

広島城の動物たち

広島城のまわりは、きれいな水をたたえる堀と木々が生い茂り、自然が豊富な場所です。だから、市の中心部に位置しながら、多くの生き物が生活する上で、ここはまさにパラダイスとなっているのではないのでしょうか。『しろや広島城』第6号でご紹介したように、冬には渡り鳥がたくさん飛来し、堀で群れて休んでいる姿や、水に潜って餌を採っていたりする姿を目にするなど、まさに冬の風物詩となっていると言えるでしょう。



甲羅干しをしている亀たち

堀にはこうした鳥たちだけでなく、たくさんの魚や亀たちを目にすることができます。優雅に泳いでいる鯉もしかることながら、天気の良い暖かい日に堀の周りを散策すると、石垣沿いに亀・亀・亀!! 何十匹もの亀たちが水の中からはい上がり、気持ちよさそうに甲羅干しこうらぼをしています。水の中に半分つかったまま首をしっかりのぼしてるもの、集まって亀の上に重なって休んでいるものなど、のどかな風景を目にすることができます。そんなある日、他の亀と比べて倍以上はある巨大なスッポンがデ〜ンと甲羅干しして

いるのをみかけました。一目見た瞬間、でかい! こいつは広島城の堀の主ではないだろうか!? いそいで手にしていたカメラでその雄姿を撮ろうとシャッターを押した瞬間、すごい勢いで水の底へと逃げて見えなくなりました。この警戒心のおかげでここまで大きくなることができたのかもしれないね。

まもなく広島城は桜一色へと染まります。桜の花が満開の頃には、天守閣へ登る石段に桜の花がたくさん落ちているのを目にします。まだ散ってしまうには早いし、花がまるごと落ちているのはどうしてなのだろうと見上げると、すずめたちが木々の間を飛び回っています。じっと観察していると花の根元をつついていのがわかります。実は彼らは花の蜜を吸うためにつついて、吸い終わると落としているようです。この季節最高の御馳走ごちそうなのでしょうね。



桜の花をつつくすずめ

みなさんも広島城に来る時は、天守閣だけでなくまわりを散策してみてください。鳥や魚いろんな動物たちを見かけることができますよ。ただ、そおーっと見守るだけにしておいてあげてくださいね。彼らにとってはせっかくの楽園なのだから…。(山脇)

しろや
!
広島城

編集・発行

財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

平成22年 3月18日発行

「しろや! 広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます

広島城利用案内

開館時間 9:00～18:00
(12月～2月の平日は9:00～17:00)
入館の受付は閉館の30分前まで
入館料 大人360円(280円)
小人180円(100円)
()内は30名以上の団体料金
休館日 12月29日～1月2日
ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>



携帯サイト